

尾張名所圖會

後編

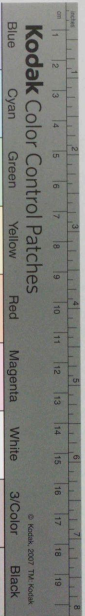
五

第四門
尾張名所圖會
尾張名所圖會
尾張名所圖會
尾張名所圖會

圖書部
五月廿四日
尾張名所圖會
尾張名所圖會
尾張名所圖會

圖書部
圖書部
圖書部
圖書部

第四門
文第24號
12



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM Kodak



尾張郡所圖會後編卷之五

目錄 兼栗郡

兼栗郡解

黒田里

正徹法師黒田里_ノ託居_ノ園

黒田神社

一柳氏城跡

劍光寺 宝光寺

善龍寺

善光の古事

舊善光寺古跡 法蓮寺

黒田古戰場

北方里

妙性坊

宝行寺

名産_ヲ饒_ヲ

東郷侍從 大日社

里小牧渡

養額寺

玉の井里 玉の井舊跡

玉の井古覽

加茂明神社

念敬寺

及川古渡

割田_ノ繪

三寶寺

伊富利部神社

結城_ノ織屋_ノ園 佐手原御厨

大毛郷

大毛神社

極樂寺

榮泉寺

光明寺

意足居士

極樂寺廢跡

大野神社

河田渡

葉栗人磨塚

小塞郷

小塞神社

小塞宿禰

尾関石見守

壽福寺

養蠶の園

妙光寺

石刀神社

宮田天王社

上郡田圃粟林

宮田杉

河沼畜郷

魚入天神社

文永寺

千間猿尾

草井大猿尾

名産羊糞

村國里

曼陀羅寺

曼陀羅寺にて軍議の園

名産飛保茶

河俣上天神社

勝宝寺

運善寺

若栗舊郷

若栗橋

若栗神社

守夫大須那神社

八竜社

浅井骨接

葉栗郡

當郡ハ國のうちの乾の極ちる地と東西ハ長く南北ハ偏へたり民部

省國帳ハ葉栗郡行程東西二十餘里南北二十二里七十歩はり

古制の六町一里ありてあらり天正十二年北の方水曹川

のわらに數十村を美濃に附屬せり今今はめりあり

甚美濃ありつとる地ハ羽栗郡よりして葉文字と羽文字よりして

四至東ハ丹波郡に隣り南より西より中島郡に接し北

より乾よりて本を川と城と灰山あり平均してて因島多

ら郡あり

黒田里 岐阜内務局の中津郡一宮の北西の山にありて田はり多家の村ありむらはり

天に十七日丁酉黒田よりなりて此山は名は黒田東鑑に建久元年三月頼朝公上海由崎の

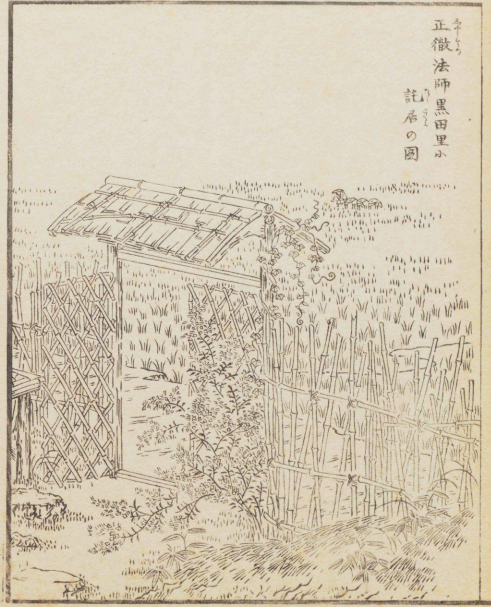
向の林岳と名傳りなりて廿二日酉午當黒田と名傳り秋の多あり一は黒田

集秋の蘇葉寺ありなり又とと和枝ありなりて西園寺ありの寺あり一公徑の

大臣の防北山に西園寺と五淨堂と創建なり其地資は朝日の領ありはる

が尾張の和枝と増鏡ありといへり石の淨あり又ははりありて右大臣實

正徹法師黒田里小
託居の園

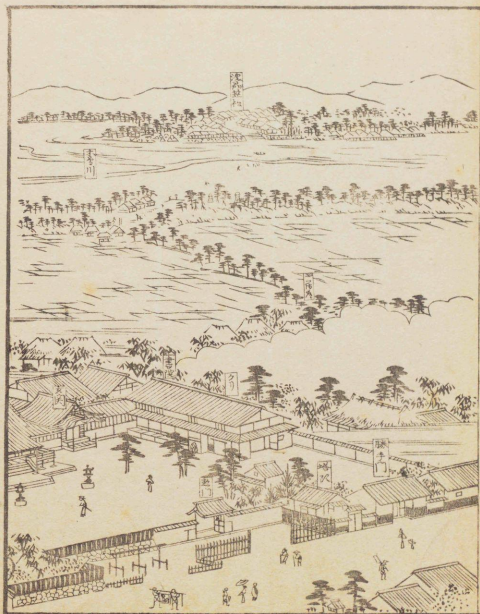


正徹法師室、清康松月庵
と号、東福寺の書院なり
近代のうちに於て世にあり
まゝにむち多し世福二年
五月九日寂す、年運福を
草履菜と名く一徳禪師
甚良の某所とす、
若し乃、庵草清康茶所
正徹助語の歌千首正徹
百首等なり

香



菩提寺
養額寺
善光寺堂四路
笠松渡



のむらぬ清きかどりのひかりて日と月と成云ふ年月の下の口開の寺堂にあり
 なたに夕つらむれはや人もまよむ野山にや人もむね不測の香ればわづらうら
 むかひもい洋のまよは都もも守佛法の一にまはうあをそよ人もまよむ清
 のかきもいりり一田の中の成寂の佛の
 清上カもいりり一田の中の成寂の佛の

瑞林山寶光寺

田村あり法清宗の初め心寺也
 古寺にんより梵刹あり

後 某州宝光禪寺花時之會而余不得預其席
 應 願命登曹則宝光之鐘守白山之朝号也
 萬里居士

若栗山河野善龍寺

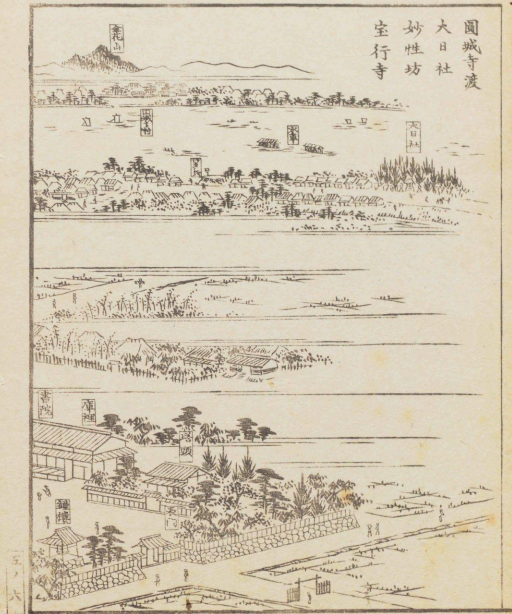
田村あり一向宗東派末
 本山を河野の東にあり

寺傳小云ありはらと

因郡河急にわづく専修坊といひ天台の道場あり一り親善
 聖人あふ化等の細祐道とつ傍聖人少依一子もとあり
 今の宗小わづくよりて今も祐道とりの向山と成本尊阿
 弥陀の本像は行基井の作といひけし目今も門を関東下
 向の時わかち成尚もふ尊ととつらう古例へ大谷遺跡録に

如来善才と尊成て
 黒田里と義一八國







玉の井古覧

あへんきしし玉井
のあへんきしし玉井

春藤雅經卿

四ノ巻并加書

おもひつやまじり
やうをたつまね
油の玉の井れ水



玉の井の里
加茂社

秋あけ
すくしほさる
まあおあし
あらし
おれ
玉の井
水
磯足



くみれ
まじりひの
まじりけき
くらし
うけ
玉の井
秋
階

寄



伊富利部神社

今十程とけ

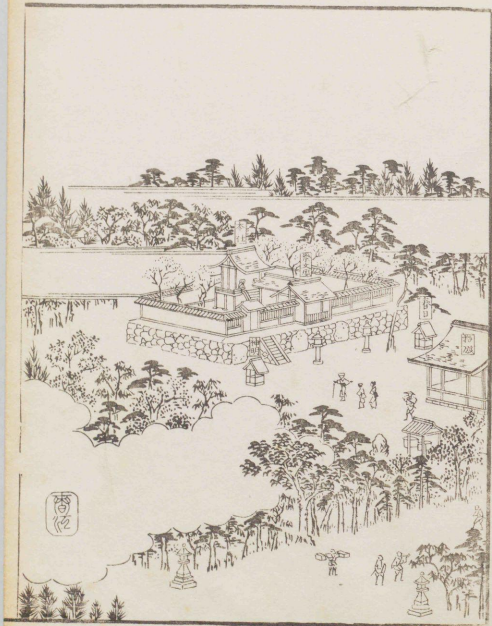
可きふ

いゆりつ

沐のふら

わつてふら

史雄



深泉寺

巖
穀
今跡
高木
庭



五ノ十五

大毛神社
廬入塚
極樂寺



香

河内一ノノ元康の元の家と家文字に似たり。一ノノをいへば神居の沙土
 又云三年二月廿三日始に朝礼星光明寺に所置依意星。高所の味之神戶
 伝書をが一種のイノイ使たり

極樂寺廢跡

坊ふら村にありむ。一傳と家の美地。田光大神居傳の遺蹟あり。一
 を跋きて追年大毛村に一寺と承無。坊ふら。民部省圖帳に粟栗郡極

樂寺寺領四十八束有余以浦領為貢代法然上人三夏不出之

繩室也とあるなり

大野神社大野村 延喜神名式大野神社本國帳に從三位大野天

神河内の官社と云々今ハ社と云々なり

河田渡

河田村 河内村にあり。名方川と懸て兵渡の跡あり。河田と云々。長九尺半。中六尺。

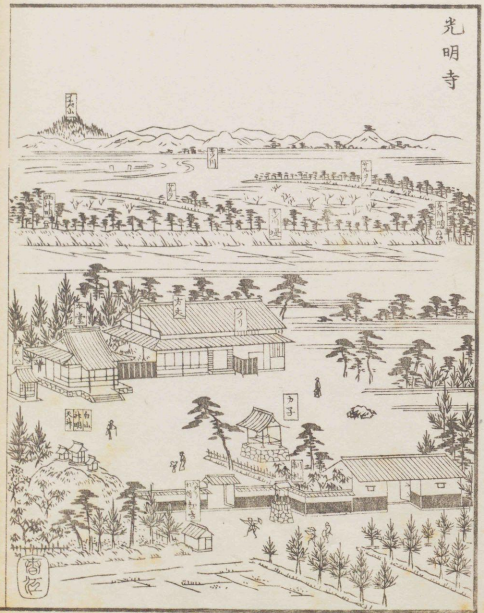
葉栗人磨塚

河田村 河田村にあり。名方川と懸て兵渡の跡あり。河田と云々。長九尺半。中六尺。

里の古墳と云々。大なる石棺を露出。一ける。横六尺半。中六尺。

劍の折る。鉞の古さ。銅のひかり。似る。一ける。破

光明寺



人乘「志」の徳人としてこの先向として建天武時統文武の伴世に物本人實業十人
 藤二人の相居り物事「不見國人粟平」尾張同人之「其地成」黄粟とて「粟平」も
 「多」物事「志」一人の位「多」事「古書」にも「百人一宿」事「多」
 本「川」の位「粟平村」喜「志」の「多」以「地」の「粟平」の「粟平」の「粟平」の「粟平」

小塞神凡岡村と云和名妙に中塞郡小塞村と云す
 小塞神ひびくう中塞郡に云す

小塞神社同村に 延喜神名式小塞神社本國帳に従二位小塞天神

こわの古社より式及び因帳にも中高郡と云す

被郡に屬したりと云あり尾張本貫小塞氏の祖斗と祀るに

今八紙著明許して小塞と云は地自も度く近々土村昔年村に居る神主云す是の地を井斗とて

小塞宿祢同村の人備日本紀云延暦元年十一月庚戌内膳部口外從五位下小塞宿祢与張言

尾闕石見寺尾闕大和守吉秀の由貴尾買持處其子云處又云

慈雲山壽福寺同山唐僧云山山林居にりての地也

今八紙著明許して小塞と云は地自も度く近々土村昔年村に居る神主云す是の地を井斗とて
 物事「志」の「粟平村」喜「志」の「多」以「地」の「粟平」の「粟平」の「粟平」の「粟平」
 小塞宿祢尾張世系云あり
 尾闕石見寺 同村の人備日本紀云延暦元年十一月庚戌内膳部口外從五位下小塞宿祢与張言
 正別々奉の唐書に對して「時又ハ一万余子ハ二万五千と云云石見寺見寺誠居
 あり云云或粟平人云云其地也」
 同山唐僧云山山林居にりての地也
 今八紙著明許して小塞と云は地自も度く近々土村
 五ノ十ハ

妙光寺

祀まざる

門やりの葉

りれ楓

武買

おさげ

ちん

ま

素深



小室より張ぎて噴霧うた文化出年
 丑の秋と山と夕（石橋と孫山也）

万松山妙光寺 龍野村の寺也所産
 ちの義海和尚草創天文年中妙心寺の装漢和尚再建中興

寺堂に古澤ありて寄進妙光寺事合衆衆野内野村藤野四至藤東鎮
 寺天神古寺鎮同住輝四寺奉寄進當寺也若子十孫之中改道礼
 承和氏辛卯年九月十一日橋康成と云々

石刀神社 是里村にあり武出の社也本國源小從三位石刀天神と云ふ社ありては
 社の中森野やふと之を本國源重武と云はれり今全社を別に入
 今も其を承てて古社也なりと云はれり今も其を別に入
 風多しといふなり或説は此社が美濃に属す中郡石田村ありといふ持のり也

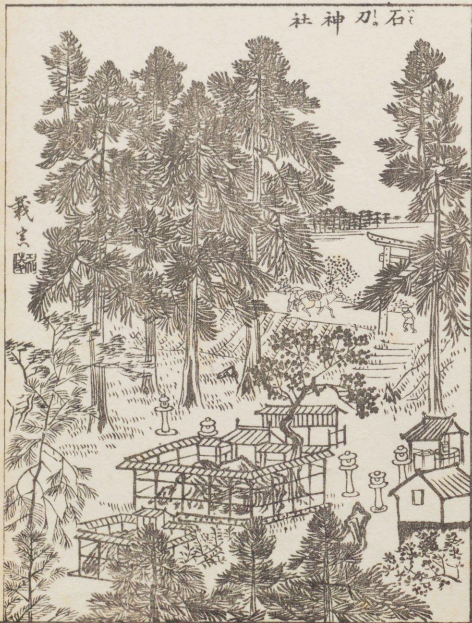
宮田天王社 是里村のちの宮田村の本主神と云はれ昔古村の住人三浦
 世三十四馬 果能奉尾園茶をももつれと加湧十 倒登八月九日 彌瀨の社
 の馬三浦某よりかす古附なりと云はれ社を初建し 承和のれ 其名のり
 村中一統りなりと云はれ三浦の先祖元承年中の一人より有道と云はれ社を元承年修築の始と
 云はれといふ三浦氏の前系に之を宮田天王社と初湧り 承和のり

上郡田園来木 古郡及び母郡の村或者より村毎に藤と桐とあり多し
 此の藤は任州の藤といふ地代に成りて田園の藤と結り清村に多し
 向し之を寄す而も藤社とも云はれ地と云はれ藤と知れり天和年中任州上
 向し之を寄す而も藤社とも云はれ地と云はれ藤と知れり天和年中任州上
 向し之を寄す而も藤社とも云はれ地と云はれ藤と知れり天和年中任州上

宮田村及び
 近村養籬
 勉勵略図
 人小峠
 蚤かしの女
 野買ふん
 枕堂



石刀神社



義生

其二
製絲の圖

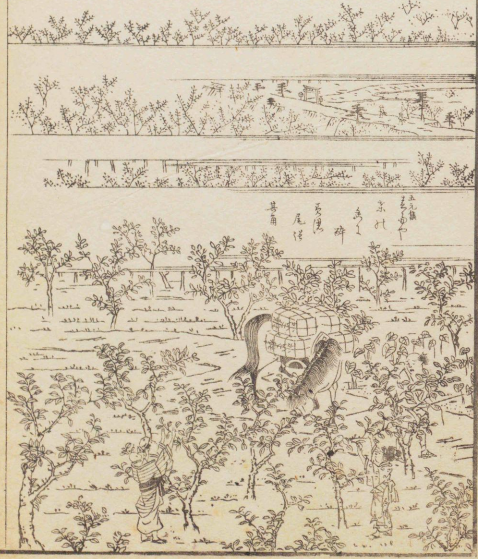


五ノ二十

清江

桑上郡
林

此の桑は
古くより
名産なり
其の葉は
蚕の食糧
とす
其の皮は
糸を紡ぐ
に用ひ
たり



宮田天王社

簡



十一六二

草井大猿尾



本岩川の水激流して
 谷の境や目子れハ
 決り勢き及去遠あり
 石壁に大石をて置き
 橋より甚長百十餘間
 水下銅板出せり
 其石壁に水溜りの
 平子をたせしむる水
 溜り石壁に流せり
 石壁は捷足にせり
 下りし水は甚大なる
 舟より平水に近し
 村原に在り村水に
 舟十間係尾し也



河沼舊郷

仙覺律師が
河沼の地をたもとにありて今河沼といふはありて
仙覺律師が

万葉集抄々尾張風土記と引いていこも粟栗郡河島社在河沼郷

河島村奈良宮御宇 聖武天皇時凡海部忍人申此神化為白

鹿時々出現有詔齋為天社云云民部省圖帳小河沼公穀二千

五百六十七束有餘假粟一千三百九十五九真束綿班系鞍馬

具木竹之工又以牧馬充國司之奉と云々

奥入天神社

奥入の社ト云々本國
奥入の社ト云々本國

法隣山文永寺

法隣山文永寺
法隣山文永寺

真名代傳と号くもて今境内に古塚ありて古塚の別殿に書ありて其高由ていひて後寺ハ

天橋山寺と云ひて後鄰文永寺に改りハ則禿飲の園と云ひて未詳也の字畫より名づく

と云ひてより一ハ則禿飲の園と云ひて未詳也の字畫より名づく

今之宗
今之宗

名産 羊 奥
名産 羊 奥

奥入天神社
奥入天神社

法隣山文永寺
法隣山文永寺

奥入天神社
奥入天神社

法隣山文永寺
法隣山文永寺

文永寺



塔の
穴
印
三花の石
李

曹

村國里

今の村文寺村より和名妙粟栗野村國民部郡團帳小村國里の漢字と凡八郷より村
ののしりしりともてみく曆德元年土月十三日沙汰津所より尾張の目代小村
乃一古状小國宣當田村支野庄大嘗會米事ムニ凡一其後の地に村文寺と村實
くもつたつた村實の里事なるとは他人の寺なりやうてかふとて一丹波田
大嘗會の分に対くもの里とて今も例えて村文寺も曆德の大嘗會米の國宣此曼陀
羅寺に所造ともかゝ大嘗會にうらむ地居と心得りもともりりて天正紀に
くご中納言とて入の所一を陸せとて一羊うらふ考言々母の又のりて
前編老を那りか對所村けか金木の森に及しうれば是に哪伏今も凡二
日輪山曼陀羅寺 前編保村小なり陸上宗山弘亦御禪林寺光明寺の西まき木
朝六權林の一所して田舎の本寺とて一袈衣着履允許

後醍醐天皇の元徳元年 天真乘蓮上人鎮護國家のつりふ叔走
とてとらひ田福寺とソヒと寛正三年 曼陀羅の瑞應小より今

の山号寺号と依甚後 後奈良帝の天文十年三月廿五日 勅
願の繪旨と下りり洞山上人の花園内大臣師徒との末孫とて

融和尚小浄土の血脉と授け蒙中和尚の浄土血脉論をも兼運
と尾州曼陀羅寺云とてんくよりり智徳兼備くる大徳

よて康永三年六月十七日遷化も抑赤山小郡中一の大地より

堂塔僧坊覺とうへ常に称名の方絶代浄土の體相もこのわり

て無垢清淨の古名刹なり ○本堂 阿彌陀如来觀音勢至の二菩薩の
法と表は上人あちと創是し本

若く違主の志彩りうに折ふる名有り併り取上り去置りて一夫徳と 曼陀羅堂
法と表は上人あちと創是し本

其の西かち 徳花開帝の寛弘三年六月壬日赤山寺七世の傍僧光上人表時の
動行とてうひうに一人入奉り浄土曼陀羅の一軸と授て有り有説の者一に群

それ最く三無逆を現しより我上人の修行と嚴より修らざりてそ
ぬ上人や一此をわひひれば法寺八幡社の堂中へ入りてくまで曼陀羅とひする

足と大和國の當麻寺の古幡と少たふすう一り朝日經堂由に一入り曼陀羅
小殿ト大和國の光明寺にて無垢の目と譽りてたけのち有り別堂にあり曼陀羅

陀羅と有り有り其時香金の中より女珠菩薩の小像現ト入り其像今猶ほ
香金の女珠と稱けりて山号とてはく日輪山曼陀羅寺と云ふ

鎮守八幡社 方丈の南の方にはあり群衆集に法寺八幡宮と改造し修り此淨土
の社に死したるひりをおひりて今も修りつてとるい人の法とれとて一法

のちりり甲の神奉てを此の堂種の草とてかひい今て社遊述しん
ふとて之けら奉り誓ひのちせ依り多小社の母と非や修りしん

稻荷社 秋内に 寺寶東坡芭蕉画沈周賛 一朝鮮人筆西湖因
幅 牧溪繪 三 當寺縁起一卷 同祖君 同一卷 外三四世の行
作 大三尊 額 尾上形半鐘 其か古画古書多く古證文數十通あり



けいもん又活
 時川故の身と
 比治軍を以て
 大治軍一火
 備てしや
 といふは
 幸に御津
 せり御津
 小入り

香

曼陀羅寺軍議



坂東攻の時清
 是元依の善陀
 三三軍降成
 入則一行一先
 美以と小座一
 何やんお前
 一が御改
 座とゆふは侍
 をとてわし行
 四の儀をよ
 といふは受代
 教らの立立
 石和南共時
 小徳平一三茶
 の給侍わし
 右の指さしと
 天とましと

五ノ十八

之清浄の光りを世す此の殿座と御所一併なり
 かのえにいふ清ひ 清の水ふくやせにらきりおきん
 上人のこゝに

清の水ふく水の末もみくきえにむすみ聚るなりかしとて
 かきて西東別ふ主坊りていひけり一や日西にむあきんといひてわ
 南にむすみ坊りもまきひてさうあせしえうけり又かといふ心よはせと
 ぬく思ふ心ゆかりなんつゝまてらちたのまにまきひて三業の潔と念ふ
 「さあけ又さうまふもまきとれとれ」さきもまき日の高小瀬一葉のま
 原にけりて塵の介り心地もすれ

名産 飛保茶

河俣上天神社

河俣村あり今八剎社と稱す本國腰中中島郡 権三位河俣上天
 神といひ古社あり以てむし中島郡ありなり 因頼ハハ

平泉山勝宝寺

田村あり一向宗東派系郡本山直まて虎谷院ありあつた
 郡七門徒の二一して建在年中の創建 兩山 魁 龍 坊といふ
 郡塔の産あり信院か如來某々者うりし説書を人本古町と云ふなり此所
 うりし七人のうち一人の住化かゆい活りてあつて道主とて
 人より信んてこの聖人真意の十字名号と云ふなり大谷寺 勝保に御衆御
 細勝宝寺に御印七箇寺の基一より中古洋門徒の子孫起す所なりといひ
 いふや 妙なり 評なり 依

如來堂 運善寺

大日比才村あり一向宗東派系郡本山直まて依勢七門徒の
 ちありて往昔ハ天台宗ありて此の地也 直去 訪 祝 香 を 人 々

勝寶寺



河俣上天神社

神杉の

さきむと

ころろと

上ふさむ小

茂みはうさ

夫部典則

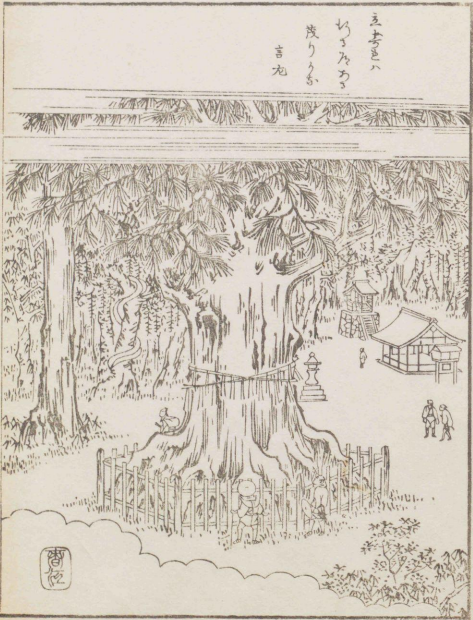


五ノ三十

けりみち

茂りうさ

言九



地傳一今の宮に改むるまき入任坊の本場ありて、この國まよりを人の語とぞし、この不
 ら他し、けりて、西にせり、任地は倫と對し、其れといひ、任人入任坊、北四章、十八
 常陸國大曾根常福寺の記よりひき、任人四條
 の一ありて、餘儀三才國會の記ありて、けり、
 若栗郷 壹村のうら守和栗とゆふ地あり、和名妙及以民部者
 國體の栗栗郡若栗とん、まは名の跡とまらう、
 若栗橋 同村のうら若栗の田御の
 橋の名にのこり、まらう、

若栗神社 同村のうら、今 延喜神名式小若栗神社本國帳小從三位若

栗天神とまらう、祭神ハ羽粟臣の祖神 天押帶日子命之 民部省

若栗明神神田三十有餘、東光國司之受統 社人 社本式、玉樂神其の同地はり、若栗、
 和銅三年所祭、能達日命也、(みより) 國帳、
 西方院のまらう、けり、(みより) 延暦十三年より名を命とて寺のまらう、高北及び守夫那

倉神社の記勢、(みより) 延暦十三年より名を命とて寺のまらう、高北及び守夫那
 兼社院、聖王吉吉長、(みより) 嘉紀、
 延暦元年、延八月、有ありて、任人、まらう、

宇夫須那神社 同村にあり、今 延喜神名式小宇夫須那神社とん、
 本國帳小從三位守夫須那天神とらる官社とらり、祭神ハ 景

行天皇の御むす、五、百城入、姫皇女とらり、御母八坂入、姫ハ尾張大

海坂の御孫とれ、其縁り、皇女とらり、(みより) 延暦十三年、高北及び守夫那

名とまらう、(みより) 延暦十三年、高北及び守夫那

名とまらう、(みより) 延暦十三年、高北及び守夫那

名とまらう、(みより) 延暦十三年、高北及び守夫那



若栗神社
 若栗橋

うらまはり
 いさ小川の
 橋とらり
 名とまらう

志近

高北

守夫須那
神社



酉位

兼栗郡十夫須奈社実内下力雄會と云々之東神と云々此ハおもひよりと子一ノ行旅
 隨筆に西宮記に引て凡張國兼栗郡若栗郷十夫須奈神社あり廣入塚の誕生の地として
 風土記に載りたりとありと云々ヤリヤリと昔道の
 西宮記にこの事あり然る事ふれりや尋へ
 八竜社 淺井村にあり有志云々内中並群淺井神社と云はし一説小本國取集説小
 考一云より今郡ハたゞしこれとナ嘉郡ハ在り地あり此社ハ式内ノ社として
 云々

淺井村櫻舟醫師 内村小あり藤林平と通稱す此家々々全處身等々瘡瘻は世に
 して瘡瘻と云々もんにありはせんと云々ありをを世にありりも
 匠師の姓名と云々の書よく極海舟の書法と通稱せん



A294



五ノ三十三

愛知 県



1103263986

294

才

IA-2-5